ともしび
2007. 3
第41号
大学婦人協会東京支部

・遠くを見すえて
・「名称変更」に関する懇談会
・「花で幸せを育てた人々」講師 須磨佳津江氏

遠くを見すえて

JAUW会長　田中　正子

昨秋のシンポジウムも成功のうちに終わりました。基調講演やパネルディスカッションでは、ジェンダーをめぐる課題が様々な分野から報告されたことで、この言葉の持つ意味に一層の理解が深まったと思います。今年の全国セミナーでは、ジェンダーと教育の問題をさらに掘り下げたいと思っております。

1996年に編纂された50年史を読みますと、これまでの大学婦人協会の活動の大きな柱の一つが女性の教育の問題にあった事がはっきりします。まず、協会設立と同時に教育制度委員会が発足し、新しい六三制の教育制度絶対支持を打ち出し、翌年には、奨学委員会が設立され、奨学金事業を開始しています。設立3年目には、活動方向を教育問題、女性問題に定め、52年に女性の高等教育推進の立場から高校卒業後の女性の進路調査、53年には、中教審に女性の委員を加えるように他団体によびかけて請願書を提出、54年には女性教員の差別的取扱いに関する実態調査、高校の男女共学実態調査などを次々に行ってきました。60年代半ばからは、数年にわたって高等教育を受けた女性の再教育および能力活用に関する問題に取組んでいますが、これは昨今の再チャレンジ支援に通ずるものです。86年には「教育改革」をテーマに全国セミナーが開催され、家庭教育から大学改革まで広汎な議論がなされています。

教育基本法が改正され、高等教育が変貌しつつある今、これからの教育にはどのような課題があるのか、民間団体の立場でしっかり見ることが必要ではないかと思います。

このたび、女性の地位委員会がまとめた女児に関する調査報告からは、日本の女児がいかに深刻な状況におかれているか驚くばかりですが、ジェンダーの視点にたった教育によって解決できる問題も少なくないことに気付かされます。

次世代のために遠くを見すえた息の長い取組みが求められています。

事業報告・予定

10・14　ジェンダー問題を考えるシンポジウム
10・27　「㈳大学婦人協会名称変更」に関する懇談会
11・29　講演会「花で幸せを育てた人々ー幸せみつけの深夜便ー」　講師　須磨佳津江氏
12・9　第6回自然科学講演会（科学研究奨励委員会と共催）「生命科学教育における新しい教育法のこころみ」　講師　熊谷晶子氏
12・17　国際奨学生報告会（共催）
1・6　新春のつどい・国内奨学金贈呈式
2・28　講演会「ビジネスマンが見た中国ーこれからの日本と中国の関係は？ー」　講師　倉垣卓氏
3・1　東京支部会報「ともしび」第41号発行
3・17　国際奨学生報告会（共催）
4・7　JAUW第50回通常総会
4・8　於・福岡
4・14　東京支部総会
記念講演「今、日本の家族は？ー家族心理学の研究からー」　講師　柏木恵子氏
5月中旬　皇居見学
6・20　講演会　講師　神野直彦氏
以後の事業は追ってお知らせします。

〈JAUW主催
ジェンダー問題を考えるシンポジウム〉
('06・10・14)

参加報告

東京支部長　森川　淳子

昨年10月14日「ジェンダー問題を考えるシンポジウム」―高等教育の立場から―が、東京支部79名、他15支部46名、外部講師4名、他に、都心で行われたこともあり一般参加者19名、計148名を迎え、津田塾会本館で盛大に開催されました。7、9月には準備段階として、「教育とジェンダー」のテーマで、阿部副会長、田中会長、青木元会長による3回の勉強会も開かれております。

午前は、早稲田大学大学院教授浅倉むつ子氏の「学術の世界にとってジェンダーの視点はなぜ必要なのか」というテーマでの基調講演があり、学術会議の活動、女性研究者の現状、そしてジェンダー学の有効性について日本学術会議の数少ない女性会員としての立場に立ったお話がありました。

午後は「〈ジェンダー・トラブル〉をめぐって」のテーマで、国際関係、女性科学者、教育の現場、行政、企業、マスメディア分野のパネリストをお迎えして、それぞれの立場での報告、問題提起がありました。その後会場からも質問、発言が多く出され、予定の時間をオーバーしての活発な意見交換が行なわれました。資生堂の社内改革など身近に感じられる興味ある話が出されていました。パネリストのお一人の山下泰子氏は東京支部の会員でもあります。また今回のシンポジウムは来年度の全国セミナーへ続くものと捉えられております。

終了後、ユーハイムで51人が参加する懇親会が持たれ、講演者を囲んで支部の枠を超えて会員同士の交流が行われました。

東京支部委員会では、実行委員として会場係を受け持ち卓上表示、マイク係等協力、参加をいたしました。

シンポジウムに参加して

21世紀のジェンダーはどのようになっているのか興味をもって出席しました。浅倉むつ子氏は基調講演で、男性中心の学術世界で研究者になるまでの体験から「ジェンダーの視座」の重要性を痛感され、ジェンダー法学に取り組んだ経過を話されました。研究は順調にいったものの就職で挫折（学歴O.K、女性で若くないがネック）、その時の指導教官より「良い仕事をすれば、いつか認められる」という励まし。これは新聞で読んだ「管理職女性は上司の引立てがある」の内容を私は思い出しました。日本学術会議の女性会員の比率飛躍も外圧と学会の取組みで国が参与して実現したこと、また岡山市が大きなトラブルもなく男女共同参画推進できたのは、市長の熱心な協力のもとで実現したことなど社会のうねりとなってきています。

京大事件の判例（1999年）では、政治的背景は大事だがセクハラは小事という、裁判に見る男性中心の考えに愕然としました。ハラスメントに対して批判的に捕え、性的抑圧のない関係性の構築を目指す法制度のあり方を研究するジェンダー法学に期待します。男女役割分担の考えに「NO」と言う若年世代が将来日本をどう変えてゆくのか楽しみです。

女性問題の節目（1975年）に生れた娘は常に男女同数で歩み、男女間のこだわりもなく対等に仕事をしています。討論で負けたか弱き年下の男性に「もっと叱って欲しい」と言われ困惑。これは新手のセクハラではないでしょうか。

女性研究者はさまざまな環境から解放される50代以降に復興期があることに共感し、自分の今後も考えました。女性問題に取り組む大学婦人協会の存在意義ありと思います。

（塩沢　正子）

〈東京支部主催〉

「名称変更」に関する懇談会

('06・10・27)

昨年十月二十七日に、名称変更に関する懇談会が、田中会長、阿部、鷲見両副会長、三十余名の東京支部会員が出席して開催されました。名称変更について十分な討議を重ねてこなかったという意見もありましたが、この会は参加者全員が率直に考えを述べ合う場となりました。

当日出された主な意見は左記の通りです。ご報告いたします。

・一九四六年に大学婦人協会が日本にできたとき、その表記は英語であった。University Women の日本語訳として当時としては新しい言葉だった「(大学) 婦人」が採用された。

・大学婦人協会設立時の歴史を考えてほしい。女性が大学に入るのが困難な時代に、大学婦人協会は女性の教育向上のために大きな働きをした。しかし、設立後六十年経ち、変えるのなら今ではないかと思う。率直に多数に従い、会の進むべき方向を考えるほうが大事だと思う。

・「女性」という言い方が今や古いと思う。そのままの「婦人」でよいと思う。

・名称変更については既に十年くらい議論が続いていると思う。「婦人」に違和感はなく、歴史を考えるとこのままでよいのではないか。若い人に入会してもらうために、活動内容をどうするかを考えよう。

・「婦人」という名称には愛着があるが、世の中の趨勢というものがあり、名前にはそんなにこだわらなくてもよい。名前は曖昧で大きく網羅しているものがよい。地方支部には「女性」に変えたいという要望があると聞いているので、変えたらよいと思う。

・大学婦人協会は創立六十周年に当たっており、名前を変えるタイミングなのではないか。名前を変える場合は、あまり大きく変えないほうがよいと思うので、「婦人」を「女性」とするのがよい。

・名前を大きく変えてしまうと、「大学婦人協会」だったことを説明しないとわかってもらえないのではないか。

・JAUW（注）としてはどうか。

・団体にとって名前は大事。会員を増やすために、また会の内容を改めるためにも名称を変えることが起爆剤になると思う。

・「女性」に変えたからといって若い会員が増えるとは思えない。会としての「売り」が必要。この会がなにを打ち出していくのか、若い人たちがなにを求めているか、高齢になられた会員たちが会を辞めていくが、このままでよいのか等を考えることが必要。

・活動の内容を魅力的なものにすることが大事。名称は、女性の様々な団体にとって共通の悩みである。会員数の減少についての対策を考えることが大事だと思う。

・「婦人」というと歴史を感じる。

・名前で会に入ってくる人はいない。会員減は「婦人」という名称のせいではないと思う。

・名称を変えたからといって若い人が増えるかどうかはわからないが、できることはすべてやっていこうと思う。

最後に、田中会長からは、「名称を変えることが即会員増につながるわけではない。また、他団体が変えたからといって、私たちの団体も変える必要はない。しかし、大学婦人協会が公益認定法人になるに当たって、事業も公益性のあるものに変えていかなければならないし、会も変わっていくと思う。名称を変更するなら今がひとつのチャンスでもある。今後の理事会でさらに話し合うつもりであるが、皆様にも十分にお考えいただきたいと思っている」というお話がありました。

鷲見副会長からは、「(名称については) 折り合いのつけ方が大事だと思う。大学婦人協会は設立後六十年を経、還暦を迎えている。公益認定法人になるときでもあり、これからなにができるかを考え、衣替えするなら今が最適と思う」というご意見がありました。

阿部副会長からは、「今日、こういう会をもてたことに感謝している。生の形で意見を聞くことができ、参考になった。六十年の歴史は大切だが、時代が変わっているということも受け入れたい。これから先をどうするかを考えるときに、名称を変えるのもチャンスではないか。高齢社会でも会員が積極的に活動し、発言できる組織であり続けたいと思う」というお話がありました。

(注) JAUWを正式名称にしたらどうか、という意見については、現在の定款でもJAUWを使うことはなんら問題はないこと。実際、大学婦人協会の会報は「JAUW」となっている、という説明が会長からありました。

〈東京支部主催見学会〉（'06・6・22）

鎌倉長谷寺のあじさいと写経

朝方の雨も止んだ梅雨の一日、鎌倉駅に集合した二十二名は江ノ電で長谷駅へ。長谷駅より大仏殿近く、中華街の華正楼の鎌倉店で北京料理の昼食。華正楼はかつては別荘だったという築六十年の純和風木造建築で、庭園も美しく、二階からは彼方に相模湾も望める趣ある店である。

昼食後、長谷寺に移動。直ちに仏殿慈光殿へ写経に向う。筆ペンもあるが、皆各々墨をすり「般若心経」を心をこめ写経。庭内の拝観者の賑わいとは別の落ち着いた心洗われる静寂の中の一時間であった。書き終えた写経は境内の経蔵に奉納させて頂ける。

写経の後解散。三々五々庭内の散策に向う。慈光殿近くの弁天堂より地蔵堂、阿弥陀堂を経て観音堂に至る。観音堂には本尊十一面観世音菩薩像が安置されている。言伝えによると、一本の楠の霊木で造った二体の観音像の一体は奈良の長谷寺にお祀りし、一体は海に流した。流れ着いた相模国長井より鎌倉のこの地に移された観音像を本尊として創建されたのが長谷寺の始まりと言われている。木造に金箔を施した、立ち姿美しい大きな観音様である。

大黒堂脇から傾斜地を利用した眺望散策路があり、山肌を埋め尽くすよう二五〇〇株、四十種の青・赤・紫・白と様々な色の紫陽花が咲いており梅雨空の下、華やかで美しい。紫陽花観賞後、展望台のベンチで一休み。由比ヶ浜や材木座海岸も一望でき涼しい風が心地よかった。

短時間の内の写経、散策であったが、私には近いようで遠い鎌倉になかなか来る機会が無かったので、楽しい一日であった。

（今村　麻子）

〈JAUW主催バスツアー〉

'06・11・7の歌メモより「クレマチスの丘」

渋谷から駿河平へ日帰りのバスで出
かける黄葉の朝

何ゆえにビュフェ美術館「地獄篇」
と対に飾れぬ「天国篇」を

少年が描きにしトマト梨レモン継ぎ
目ある布に今も新鮮

身めぐりのすべてを画布の平面に若
き男の出陣宣言

冬の陽の朱を背にして目を瞠る若き
女来る祝福のはじめ

食われたる名残りなれども一頭の牛
の骨格オマージュとして

『海龍』と『人間の声』線描の挿絵の
エスプリたおやかな砦

透明な傾斜路に宙を渡りつつ入館者
われも展示されおり

過ぎ去らぬ幸せ記し一株の青き蘭あ
りスケッチ帳に

流れなき庭につくねんと置かれしよ
蹲一つ井上靖文学館

貸切のバスに笑みつつ戻り来る仲間
麗し「アナベル」よりも

畑中の高圧線の目路の果て冠雪の富
士とつぜん現る

水仙の群落育ちヴァンジの野外彫刻
に生気を送る

一瞬の人の行為を象るは労多くして
功少なきに

スイレンの花の紫と黄緑を円き池面
に咲かせるは誰

ムベの実の赤紫がクレマチスの花の
白に寄る暖冬の配色

日本画の千四百色見本紙と顔料七百
色さくら美術館に眺む

ナイアガラ瀑布を写す日本画の筆の勢い水に親しき

柿田川この蒼き淵に湧く水の富士に降りしはいつ頃のこと

富士山の姿なつかし噴火害なかれと祈る冬至の夕べに

（ときえだひろこ）

JAUW東京には句会があります。歌会もあると楽しいと思いますが、ご希望の方いらっしゃいますか。

〈東京支部講演会〉（'06・11・29）

「花で幸せを育てた人々」
―幸せ見つけの深夜便―

講師　須磨　佳津江氏

銀杏黄葉の光る午後の津田ホール2階で講演会が催された。

十一年間NHKの「趣味の園芸」のキャスターを務められた氏は、インタビュアー、コーディネーター、エッセイストでもあり、政府の複数の省の委員を歴任される等ご活躍の幅は広い。現在アンカーを務めて居られる「ラジオ深夜便」の番組企画の内外で、花と緑に関する心豊かな人々や、感動のお話、宝石の様な言葉に出会って来られて「多くの人と出会うことが神に頂いた運命なら、多くの方に感動を伝えることを責務と思うようになった。」と話された。

ダウン症のお子様を正念工夫で育まれ、向日葵の絵を描くのが好きな娘さんのために心の温かさを伝える美術館を開かれたOさん。未亡人になって、世のため人のために生きたいと願い、63才でフラワーパークを開いたSさん。「それがおバアちゃんの夢かい？夢を持つのも一つの才能」と、娘婿の賛成だけでのスタートだった。三十才で全盲となったシクラメン農家のTさんは、見える時より美しい花を咲かせ、「友達の応援のお蔭で今がある。買った方の玄関でその花が家全体を輝かせるのが目標」という。いずれも各々の試練の中から、支えて下さった人の愛を覚え、人の喜びを己れの喜びとして生き、幸せの花を心の内に育てた方々である。

話はプロジェクターで映し出されるオープンガーデンに移り、近年、日本でも各地に広がっていること、その人なりの庭を公開したり、小布施町のように町ぐるみで花庭造りをしている所もある。植物の命を育てる喜びと感動を自分だけのものとせず、オープンすることにより園主の感動と優しさが来園者に伝わって、一種の社会活動となっている。

「花育ては子育てに似ています。今の日本に欠けている人の幸せを願う心が、日本を元気にするのでは？」と結ばれた。

清々しく温かいものを胸に、冬陽の中、帰途についた。

（佐藤　文子）

東京支部会員 岩田良子さんが心をこめて育てられている花々

〈東京支部　お茶の水女子大学　科学研究奨励委員会〉共催（'06・12・9）

「生命科学教育における新しい教育法のこころみ」

聖マリアンナ医科大学
助教授　熊谷　晶子

十二月九日(土)お茶の水女子大学における自然科学講演会で、十年来の教育研究を発表する機会をいただきました。

情報化時代の生命科学教育を推進するために、ラーニングシステムの

開発を行いました。実習室に学生二名に一台のノートパソコンを用意し、研究室のサーバ、パソコン等を結んだネットワークを構築し、学内LANを通してインターネットに接続しました。実習データを全てデジタル化し、パソコン上に取り込んで、解析ソフト、グラフ化ソフトを利用し解析する実習を行えるようになりました。このシステムは実習のみならず、医科大学の生命科学系の講義においても学生の理解、教員の指導に非常に役立ちます。その具体例を示しました。

また、高等学校の学習指導要領の変革に伴い、生命科学分野を学ばずに入学してくる医学生が急増し、医学教育に支障をきたしています。そこで、医学部一年生に身近な問題から学生の興味を引き起こす「日常生活のサイエンス」という講義を開設し、メディアを活用し学生が主体的に参加する双方向性の新しい教育方法を導入しました。ここでもラーニングシステムを活用しました。学生はビデオ教材や簡単な実験に意欲的に取り組み、活発に討論し発表しました。学生の学習意欲は高まり質問が増えました。その結果、「日常生活のサイエンス」の成績は、高校生物の履修の有無の影響は少なく、学生の意欲を引き出す教育の試みは一定の効果をあげました。

最後に医学部における女性の働き難さを女性教授がゼロである現実を示し、問題提起し講演を終えました。現在この経験を生かせる場を求めています。

私たちのサークルに入りませんか？

「英語講座」

英国史を学ぶ英語講座

中間　美砂子

「英語講座」は、わずか月二回ですが、とても楽しい充実した講座です。

この講座が始まったのは、約二十年前と聞いています。創設の意図は、国際化時代英語力をつけようということだったそうです。英語力をつけるには、まず、その国の文化を知る必要があります。そこで、英国史に関する原書の輪読が始まりました。

現在の講師、松本節也先生（元法政大学教授）になってからも早十年が経ちました。この間、講師松本先生を中心に、『ロンドンーその都市の歴史』（C・ヒバート）、『挿絵入り英国史』（D・マクドウェル）『ヴィクトリア朝の人々』（A・N・ウイルソン）と読み進めてまいりました。

毎回、前もって、講師から詳細な訳注と参考資料、ヒアリング用テープなどを配付していただけるので、楽しく予習できます。当日は、各自分担箇所について発表した後、講師から、訂正や、興味深い解説をしていただきます。そのうえで、それらに対する質疑応答などを行い、二時間はあっという間に過ぎてしまいます。時には、終了後もご一緒に食事しながら、我が国の歴史との関わりを考えたりすることもあります。

また、学習したことを、実際に確かめるため、英国へのスタディーツアーを企画することもあります。昨年九月には、ウエールズからスコットランドまで、古城や、古戦場などを訪ねました。講師の詳細な解説付きで、充実した旅となりました。

現在、「アイルランドの飢饉」の章を読んでいますが、次には、「大博覧会」の章に進む予定です。益々、世界や日本の歴史とのかかわりについて考える機会が増えていきそうです。

新春のつどい 国内奨学生贈呈式

（'07・1・6）

前日からの予報通り、一月六日は大雨と風の荒模様。しかし京王プラザの会場内は暖かく和やかな空気に包まれていた。

会はまず田中会長の挨拶で始まった。女子高等教育に対する長期にわたる奨学金授与とその継続の重要性、政策決定に参画する女性の輩出への期待が述べられた。戦争直後からの先輩諸姉の努力と熱意が伝わってきた。更に私達がいつ迄も頭脳明晰（？）で活躍できる様にと九五歳の研究者を例にして記憶力を磨く方法を伝授して下さった。

引き続き行われた二〇〇六年度国内奨学金贈呈式ではルル・ホームズ一名を含む一般奨学生六名、安井医学奨学生一名、社会福祉奨学生の学部学生三名が選考過程とともに発表された。

壇上で研究テーマを語る各奨学生は皆将来の抱負を明確に持っている。真摯に研究に取り組む彼女達に心打たれたと同時に、幸多かれと思った。多くの困難にもかかわらず、資格を取って社会に生かしたいという社会福祉奨学生の日野原輝美さんには感銘を受けた。

佐藤美歌さん、西澤健一さんの新春にふさわしい連弾にはうっとり。連弾とは家庭内での演奏を想定して作曲されたものが多いとのこと。音楽が結びつける家族の絆を思い描いた。

会食が進む中、モントリオール大学からサバティカル中の二人のカナダ人ゲストがスピーチをされ、入会間もない私はこの会の国際性を実感できた。

（松岡　幸子）

和やかな交歓風景

※この奨学金の一部として東京支部から十万円を寄付しています。

サークル紹介

◆英語講座
- 第一・第三金曜日　午前十時～十二時
- 大久保地域センター三階
- 講師・松本節也元法政大学教授
「さし絵入り英国史」を講読中。講師による詳細な訳註、ヒアリング用のテープ、参考資料をもとに輪読しています。
メンバーを若干名募集中です。
- 連絡先・中山正子
（☎〇四五－五四一－二四八一）

◆楽しい俳句会
- 第三水曜日　午後一時半～三時半
- JAUW事務所会議室
- 講師・柴崎富子会員
柴崎先生の熱心なご指導のもと楽しく俳句を作っています。
メンバーを若干名募集中です。
- 連絡先・小池朋子
（☎〇四五－九〇二－九七三〇）

◆源氏物語を読む会（Ⅰ）
- 第三・第四水曜日　午前十時半～十二時半
- 津田塾大学同窓会・会議室
- 講師・坂上栄美子会員
「宇治十帖」に入りました。
「橋姫」の巻を読んでいます。
若干名募集中です。
- 連絡先・平田宏子
（☎〇四－七一四三－一五七三）

◆源氏物語を読む会（Ⅱ）
- 第二・三・四火曜日　午前十時～十二時
- 津田塾大学同窓会・会議室
- 講師・坂上栄美子会員
「紅梅」の巻を読んでいます。
- 連絡先・中山律子
（☎〇三－三三三六－四六一八）

◆フラワーデザイン
- 第三火曜日　午後一時半～三時半
- JAUW事務所会議室
- 講師・河井尚子会員
初心者歓迎、お花と向き合う時間を楽しみましょう。
若干名、余裕があります。
- 連絡先・山崎邦子
（☎〇四五－八八一－九〇〇一）

☆会員相互の親睦をはかるために、どのサークルも和気あいあいと楽しく活動しています。まだ、余裕があるところもありますので、ご入会希望の方は、係までご連絡下さい。

2007年 東京支部総会のお知らせ

・四月十四日（土）一時～二時
・津田ホール内会議室
・記念講演　二時半～四時
「今、日本の家族は？
――家族心理学の研究から――」
講師　柏木恵子氏（文京学院大学・大学院教授、東京女子大学名誉教授）

【講師紹介】
東京女子大学卒業。教育学博士（東京大学）。東京女子大学、白百合女子大学教授を経て現職。専門は発達心理学、家族心理学。主な著書として、『子育て支援を考える』『家族心理学』（東京大学出版会）『ジェンダーの心理学』（共著）（倍風館）『家族心理学への招待』（共著）（ミネルヴァ書房）他多数。
先生からは「家族といってもいろいろですが、親子の問題を中心に、その関連で夫婦のことにもふれたいと思っています」とのメッセージをいただいております。

※記念講演には会員外の方も多数お誘い下さい。参加費無料。
※総会のお知らせは別途郵送致します。

2006年度東京支部新入会員（敬称略）

（2007年1月現在）

氏名	出身校	氏名	出身校
荒井美帆	立	鈴川佳子	奈
石川満寿江	東芸	砂村栄利子	東都
海老原典子	東女	玉澤淑子	日女
遠藤惠子	津	田村充代	慶・院
大嶋かず路	東芸	中尾順子	日本
加来美智子	慶応	二木睦	大女
木川眞美	実	平井和子	東女
熊谷稲子	二松学舎	細貝久美子	茶
小林亜起子	東女・パリ第十	松岡幸子	東女
柴田マリ	茶	三浦摩利	東女
島村眞智子	茶・東都院	山口さち子	東大

謹　弔（敬称略）

氏名	出身校	
武市千代子	奈女	2006年3月25日　ご逝去
中塚昌	東女	2006年12月6日　ご逝去

会員増加へのご協力のお願い
東京支部では新たな会員の獲得を目指しています。講演会・見学会・サークル等にご家族やご友人を是非お誘い下さい。

★ご寄付いただきました。お礼を申し上げます。

熊切富子氏	一万円
岡部道子氏	四千六百円
市川知恵子氏	二千円
源氏物語を読む会（Ⅰ）	五万円
源氏物語を読む会（Ⅱ）	五万円
フラワーデザイン	二万円
楽しい俳句会	一万円
英語講座	五千円

★寄付しました。

国内奨学金	十万円
国連難民高等弁務官事務所	五万円

★会費納入のお願い
会費未納の方は早めにお振り込み下さい。
★住所変更などのご連絡は事務所までお願い致します。
★使用ずみの切手、プリペイドカードなど事務所までお送り下さい。

〈編集後記〉
皆様の御協力のもと41号を無事発行することができました。感謝申し上げます。
政府から家庭まで問題山積みの年明けとなりましたが、「ともしび」は活動状況をできるだけ賞味期限内にお伝えしたいと思っています。

ともしび　四一号　発行日　二〇〇七年三月一日　発行　社団法人大学婦人協会東京支部　編集　ともしび係
〒160-0017 新宿区左門町十一番六-一〇一
Fax Tel〇三-三三五八-二八八二　印刷　タナカ印刷㈱